

志桜小だより

学校ホームページ <https://cms1.ishikawa-c.ed.jp/shiozze/>

学校メールアドレス web-shio@hodatsushimizu.jp

- めざす児童像
- 目標をもち 自ら進んで学び よく考える知恵のある子
 - 強く しなやかな心をもち 温かな人間関係をつくれる子
 - 困難に打ちかつ気力・体力のある子



カラー版を
ご覧ください。

10月号

宝達志水町立志桜小学校
TEL 29-2052
FAX 29-2069

校長 宮下 慶子



令和7年度 後期 委員長・学級代表が 任命式で決意表明！



10月2日、任命式が行われました。運営委員会や各委員会の委員長、6年生の学級代表が全校に向かって自分の目標や決意を堂々と伝えていました。

どの児童からも、新しい志桜小学校を創るためにやる気と頼もしさを感じられ、ステージ下で見守る志桜っ子達の気持ちも引き締まったようでした。

新委員 紹介

【運営委員長】佐々木 蘭
【放送委員長】徳和 詩織
【図書委員長】高下 咲良
【美化委員長】豊田 百花
【環境委員長】板井由理子
【保健委員長】宮城 圭佑
【給食委員長】中村 清頼
【体育委員長】丸山 音愛

【学級代表】
6の1 國井 海翔 佐々木 蘭
6の2 金曾 将人 北山 歩果
5の1 上田 遥希 林 小夏
5の2 真田 大成 田上 絹夏
4年 平野 幹大 豊田 千紗
3年 山本 蒼登 階戸 心葉
2年 山下 凌空 樋本 心
1年 木村 奏陽 松田 咲愛

ミシンボランティアのみな様 ありがとうございます。



9月から、6年生の家庭科の時間にミシンボランティアの方々にお越しいただいています。6年生は、キルティングの布地でナップザック作りに挑戦中！慣れないミシンに悪戦苦闘している子ども達の強い味方になってくださっているのがミシンボランティアのみなさんです。時間延長してまで、子ども達に寄り添ってくださっています。ありがとうございます。



図書室にタッチパネルパソコン導入! 4~6年生は、自分で操作。貸出・返却スムーズ



志桜小学校の図書室での本の貸出や返却が、簡単なタッチパネル操作で手続きを行えるようになりました。

4~6年生は、自分で手続きをしたり、キーワードを入力したりすることで本の検索もできます。

県内の小学校では、初の導入とのことです。ゆくゆくは、子どもたちのタブレットから町図書館・学校図書室へアクセスし、本の検索や予約ができるようになるそうです。



小学生動物愛護絵画 入選

1年	中橋 星里
3年	高橋 愛実
6年	豊田 希唯

おおごとう!

シリーズ 非認知能力

志桜小学校では 子ども達の非認知能力を 大切に考えています。

非認知能力が高い人は
ストレスを
「こじらせない」

趣味や好きなことを持っている。からだを動かしたり
人と話したりと、気持ちの切り替えがうまい人は、トラブ
ルへの対処も柔軟。

問題が起きたら「これくらいで済んでよかった」と
ポジティブな面にフィーチャー。起きたことには、シン
プル思考で淡々と対処。

特性3 基本ポジティブ

例えば、トラブルに対して「今の状況に対して
何が解決か」「では、解決にはどんな方法がある
か」と「今」や「先」を考える。

特性1 「今」を考える



志桜小学校では、開校とともに子ども達の「非認知能力」をすべての教育活動のベースにと考えています。
(子ども達には、上図の様に「3つの力」として伝えています。)

今回は、産業医 武神 健之さん(右写真)のコメントからの抜粋です。

「私は、産業医なので、企業に勤めるビジネスパーソンと面談しています。誰もが知るような大手の外資系企業で働き、『すごい』と見られるような大人ばかりです。でも、学生時代に、優秀な成績を収めていたにもかかわらず、**ストレスを感じる場面では一気に元気をなくし、心身ともに疲弊しきってしまう**。逆に、成績は目立たなかったかもしれないけれど、**ストレスをはねのけてどんどん昇進していく**…。このようなケースをたくさん見てきました。」(武神さん)
「ストレスに強い人と弱い人では、そもそも、物事のとらえ方が圧倒的に違う。…中略…子ども時代に大きな違いがあることが分かってきました。…それは、簡単にいうと『仲間』『好きなこと』『没頭』、非認知能力が大きく関係するキーワードです。…**非認知能力が高い人は、そもそもストレスに『しない』『こじらせない』**。そうなる前に対処ができるからなのです。つまり、非認知能力が高い=ストレスを「はねのける、耐えられる」ということではないということです。たとえば、**問題が小さなうちから対策を立てたり、助けを呼んだりと、非認知能力が高い人は、こんなふうにストレスになる前に解決するなど、そもそもストレスを生み出さないようにできる**。つまり、ストレスに対処する『力』が『強い』ということなのです。」それには、他の人の協調性や切り替える力、想像力や柔軟性などさまざまな力が必要です。



「すなわち非認知能力ですね。ストレスに強い大人の話を聞くと、子ども時代の『経験』の中で非認知能力がしっかりと育まれていると感じます。」